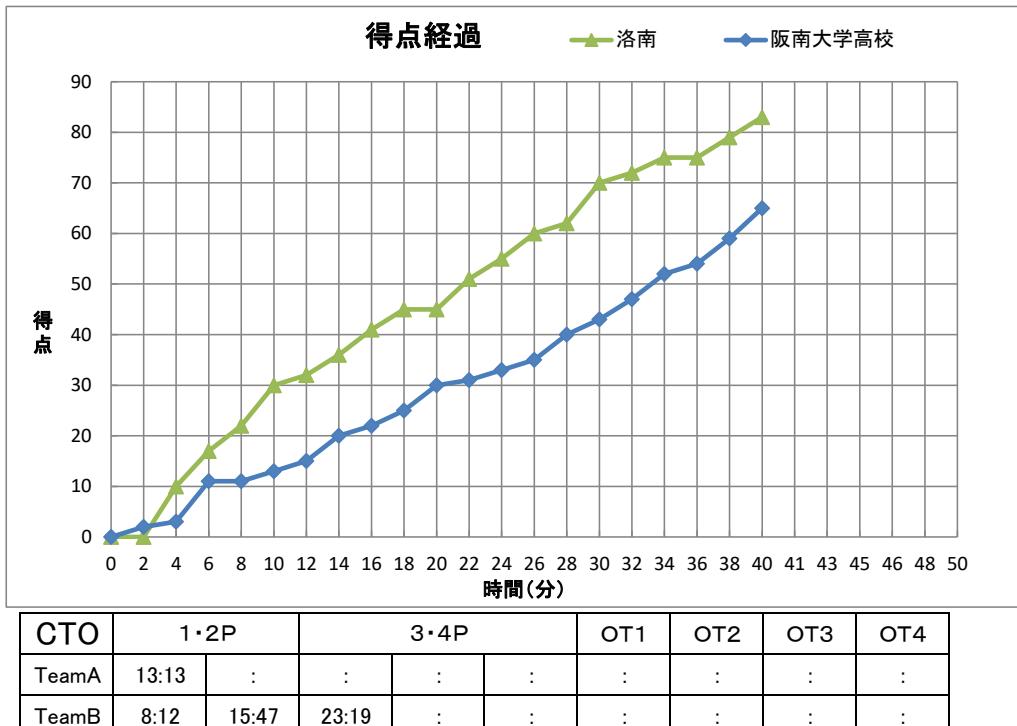




令和4年度  
第69回近畿高等学校バスケットボール大会

個人トータル表

男子		6月26日 14:40 開始				
決勝		ウカルちゃんアリーナ M				
◎	洛南	83	30 15 25 13	1st 2nd 3rd 4th	13 17 13 22	65 阪南大学高校
番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則
* 4	西村 渉	7	0	3	1	3
* 5	星川 開聖	33	1	13	4	0
* 6	三浦 健一	17	2	5	1	2
7	波多野 心優	8	0	3	2	1
* 8	辻 永遠	3	0	1	1	3
9	天野 幹也	11	0	4	3	3
* 10	井上 涼雅	2	0	1	0	2
11	後藤 豊貴	-	-	-	-	-
12	坂倉 昂乃介	0	0	0	0	1
13	和田 天祐	0	0	0	0	0
14	池澤 智史	0	0	0	0	0
15	松本 秦	2	0	0	2	0
16	佐々木 凌汰	-	-	-	-	-
17	中島 悠登	0	0	0	0	0
18	小林 祐	-	-	-	-	-
コーチ	吉田 裕司				0	
Aコーチ	河合 祥樹					
合 計		83	3	30	14	15
主審: 岩木 太郎						
副審: 上西 星太						
副審: 北村 仁						



〔戦評〕

男子決勝は第1シード洛南高校（京都1位）と第2シード阪南大学高（大阪1位）の対戦となった。洛南④⑤⑥⑧⑩、阪南大学高④⑥⑦⑨⑯のスタートメンバーで試合開始。

第1ピリオド、洛南高校はマンツーマン、阪南大学高はゾーンディフェンスでスタート。序盤はお互い得点が伸びないが、洛南⑤のミドルシュートが連続で決まりリードする展開となる。対する阪南大学高は、⑥の連続得点で完全には流れをつかませない。しかし、洛南高校は④⑤⑨の力強いドライブとリバウンドシュートで得点を重ね、25-11となったところで阪南大学高がタイムアウト。その後も洛南高校はオフェンスの手を緩めず30-13で第1ピリオド終了。

第2ピリオド、点差を縮めたい阪南大学高は⑯を中心としたオフェンスを展開し32-20としたところで洛南高校がたまらずタイムアウト。しかし、⑦⑨⑧のブレイクで再び洛南高校がリードを19点と広げる。終盤にさしかかり阪南大学高は⑫のリバウンドシュートと⑥の速攻で点差を縮め45-30でハーフタイムをむかえる。

第3ピリオド、両チームのディフェンスは前半と同様のスタート。洛南高校はショートコーナーをうまく使ったオフェンスで⑤が3連続得点。阪南大学高は⑯にボールを集め点差を縮めたいが思うように点数が伸びない。その後も洛南高校は強いディフェンスからブレイクを狙い55-31となったところで阪南大学高がタイムアウト。阪南大学高は⑥のドライブと3Pで流れを戻すように思われたが洛南高校は冷静にゾーンディフェンスを攻略し70-42とリードをひろげ最終ピリオドをむかえる。

第4ピリオド、阪南大学高はプレッシャーを強め洛南高校から連続してミスを誘う。オフェンスでは⑥⑯を中心として得点を重ねる。また、⑪の3Pも決まり点差を縮めることに成功する。終盤にさしかかり更に点差を縮めたい阪南大学高はディフェンスをマンツーマンに変更。オフェンスでは⑦の3Pが決まるも最終スコアは83-65で洛南高校が一度もリードを許さず、ゲームセットとなる。

決勝にふさわしい、体を張った、常に全力でプレイをする両チームの姿に賞賛を送りたい。

戦評: 園田 明彦

記録: 玉川高校